

平成27年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村	揖斐川町	学校名	揖斐川町立坂内小中学校			
校長名	増田 浩志	対象学年	全校	人数	10名	
活動名	総合的な学習の時間「ふるさと体験活動」		時間数	50時間	継続年数	13年
題 材	1 自然環境 (山野・河川・動物・植物・その他) 2 歴史 (出来事・史跡・先人・その他) 3 文化 (芸能・芸術・民話・風習・その他) 4 地場産業 (農業・水産業・伝統工芸・その他) 5 その他 ()		[坂内川カワゲラウォッチング] [夜叉龍伝説] [夜叉龍太鼓] [アイガモ稲作体験・自然薯栽培体験]			
複数年継続するための工夫改善	総合的な学習の時間を中心にした小中9年間の一貫教育を行うことで、複数年継続のための工夫を行っている。小学校においては、稲作・自然薯栽培や間伐・炭焼きなど坂内地区ならではの特色ある活動を体験することを重視している。体験を通じた活動をたっぷり行うことで、ふるさと坂内のよさを実感させる。そうした体験を土台として、中学生では、自ら主体的に地域にかかわる活動を位置付ける。具体的には、地域のお年寄りの方を招いたり訪れたりする活動を行ったり、坂内に伝わる夜叉龍伝説を調べそれを劇に表わし地域の方へ披露する活動を行ったりしている。また、小中合同の活動として、夜叉龍太鼓の取組を行い、これもまた地域の祭りなどで披露している。					

1 ねらい

坂内の特色を生かした自然・伝統文化・地場産業などの体験活動を通して、ふるさと坂内のよさや魅力を体験するとともに、それを土台とし、地域へ自ら働きかける主体的な活動や地域にかかわる文化を創り上げる活動を通して、地域の人々との人間的なつながりを深めながら郷土を愛し誇りとする心を育む。

2 活動の概要

これまで本校では、小学校を中心に「カワゲラウォッチング」や地場産業にふれる「自然薯栽培」「炭焼き」「アイガモ稲作体験」などの活動を、地域と連携協力して取り組んできている。中学校では、自ら主体的に地域にかかわる活動や文化を創り上げる活動を位置付けている。また、小中合同で、坂内の自然を守る「坂内クリーン作戦」や地域に受け継がれてきた「夜叉龍太鼓」を行っている。今年度は、以下の活動を行った。

(1) 自然を守る活動や地場産業を体験する活動

カワゲラウォッチングでは、坂内地区を流れる坂内川で清水小の5年生とともに水中昆虫調査を行った。子どもたちは、水質のよい坂内川を肌で感じる取るとともに、環境保護についても考えることができた。

稲作体験では、今年度から無農薬栽培としてのアイガモ農法を取り入れた、田植えから稲刈りまでの体験活動を行った。

また、昨年度に引き続き、「自然薯栽培体験」を行った。地域で自然薯栽培を行ってみえる方も数名だけとなり、非常に貴重な体験になる。5月に、坂内自然薯組合の会長さんを招き、坂内独特の植え方で苗を植えた。秋の収穫を楽しみにしている。

カワゲラウォッチング



アイガモ稲作体験



自然薯栽培体験



(2) 中学生による主体的にかかわる活動や文化を創り上げる活動

主体的にかかわる活動では、大きく分けて2つある。1つが、地域のお年寄りの方と主体的にかかわる活動である。ふれあう会を自分たちで企画し学校で交流会を行ったり、一人暮らしのお年寄りのお宅を訪問し交流する活動を行ったりしている。

もう1つが、地域にかかわる文化を創り上げる活動で、大きく3つに分けられる。1つ目が、明治期における北海道への開拓期で、開拓に至る経緯や開拓の苦勞と喜びをテーマとしている。2つ目が、開拓後も村に留まった人々の営みをテーマとしている。そして、3つ目が、地区に伝わる民話である。今年度は、3つ目のテーマである地域に伝わる夜叉ヶ池伝説について調べ、調べたことを劇に表わし地域の方へ披露するという活動を行った。2学期から劇のシナリオづくりを自分たちで行い、劇練習に取り組んでいった。シナリオを作る際、坂内や福井県に伝わる伝説を調べ、自分たちのテーマを伝えるには、どんなシナリオにするとよいのかを自分たちで考えた。運動会終了後から練習を始め、その劇を、坂内地区文化祭で地域の方へ披露した。

(3) 小中合同で地域の文化や自然にかかわる活動

毎年5月頃から、小中合同の太鼓練習を始める。練習は中学生がリードし、上級生が下級生に打ち方を指導するのが伝統となっている。その太鼓演奏を、7月に行われる夜叉ヶ池伝説道中祭りという地域の祭りで披露した。

坂内クリーン作戦は、平成7年に保護者の呼びかけで始まり、以来伝統的な活動として連綿と実践されている。今年も、坂内の自然環境を守ろうと呼びかける看板を親子で作成し、アユ釣り客が多い堤防沿いに設置した。その際、ゴミ拾いなどの清掃活動も行った。自分たちの誇る坂内の自然環境について、親子で考え、環境美化を推進する機会となっている。

3 地域住民とのかかわり、地域社会への貢献の様子

①地域のお年寄りの方との積極的なかかわり

年2回行っている独居老人宅への訪問では、毎年定期的に訪れる中学生を楽しみにしてみえる方が多い。継続して行っているため、お年寄りとは顔なじみになっている中学生も多く、自然に世間話をしたり家に上がりこんで趣味の作品を見せてもらったりする姿が見られる。また、お年寄りを学校に招く交流会も、毎年2回行っているため、これもお年寄りの方にとり楽しみな行事となっている。一人暮らしで、普段話し相手も少ないお年寄りにとり、中学生とのふれあいは、貴重な時間である。

「今年も待ったよ。ありがとね。」「いつも元気、もらっとるよ。」
こんな温かい言葉が、生徒たちの心にしみてくる。

②地域への発信

小中合同での夜叉龍太鼓、坂内の歴史や民話の劇などを、地域の祭り(夜叉ヶ池伝説道中祭り)や地区文化祭で披露している。自分たちの地区に伝わる伝統的な太鼓演奏を聴いたり地区に伝わる民話の劇を見たりすることは、地域の方にとり、地域の伝統を子どもたちが確実に引き継いでいることを感じられ、何ものにも代えられない喜びとなっている。

文化祭における閉会式で、中学生の劇を見終えた元村長さんが、次のように話してみえた。

「子どもたちが、昔から伝わる夜叉ヶ池の伝説をこうやって劇に表わしてくれ、うれしくて涙が出そうになった。こうして村の伝統が引き継がれ

お年寄り訪問



夜叉龍太鼓の練習



道中祭



お年寄りとふれあう会



文化祭の劇



ていくことが、何よりの喜びだ。」

4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長）

生徒たちにとり、お年寄り訪問や文化祭の劇は、自分たち坂内中学校ならではの行事であるという自覚がある。劇をつくり上げる際も、「リーダーの声が、全体を引き締めてくれた。」と言うように、教師ではなく自分たちが互いに厳しく声をかけあい練り上げていった。自分たちの劇なんだから、自分たちで創り上げていくという強い意志が感じられた。また、生徒会選挙の際に、生徒数減少に伴う生徒会活動のあり方が話題になった時も、「お年寄り訪問だけではなくしたくない。これをなくしたら、坂内じゃなくなる。」という意見が多くの子供から出されたように、地域のお年寄りの方に主体的にかかわっていかこうとする姿勢が感じられた。

生徒たちに、こうした主体性が育まれたのは、先の元村長さんのような地域の人たちからの温かい励ましによるところが大きい。

一方、人口がどんどん少なくなっていく自分たちの地域に対し、「元気がなくなっていく坂内に、5人ががんばっている姿を地域の人たちに示したい」というように、地域に働きかけていかこうとする意識が強くなってきている。これも、9年間を見通した小中一貫教育の賜であると感じている。小学校では、坂内ならではの豊かな体験活動をたっぷり味わわせ、その豊かな体験を糧として、中学校での主体的な地域へのかかわりにつなげている。

文化祭の劇



お年寄り訪問

